

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の第4期中長期目標(案)に対する
総務省国立研究開発法人審議会からの意見(案)及びその対応状況

【全体】

- ① 宇宙空間の安全保障と、国の外交・安全保障について混在が見られ、わかりにくい。
 - I.1.1.「宇宙安全保障の確保」及びⅢ.2.(1)「安全保障の確保及び安全・安心な社会の実現」において、宇宙基本計画の書きぶりにあわせる形で全体的に修正。
- ② 全体的に、宇宙科学・探査に関する記述が乏しいのではないかと感じるが、研究開発を推進していくと言う点が重要である。
 - 「目標本文」(資料国研 7-4-1)、「政策体系図」(資料国研 7-4-2)及び「評価軸等」(資料国研 7-4-3)の関連する項目において、「宇宙科学・探査分野における世界最高水準の成果創出及び国際的プレゼンスの維持・向上」と修正。
 - Ⅲ.2.(3)「宇宙科学・探査分野における世界最高水準の成果創出及び国際的プレゼンスの維持・向上」において、「世界最高水準の科学成果の創出を目指し宇宙科学研究を推進」、「また、長期的な視野から革新的な技術シーズの創出を目指す先端的な研究開発にも積極的に取り組むなど、科学技術基盤の維持・強化に取り組む。」と追記。
- ③ 衛星リモートセンシングによる災害時における対応にも言及すべき。
 - Ⅲ.2.(1)「安全保障の確保及び安全・安心な社会の実現」において、「防災・災害対策などの安全・安心な社会の実現等に資する研究開発や基盤の維持・強化のための取組等を推進する。
 - Ⅲ.3. 2.「衛星リモートセンシング」において、「防災・災害対策について、利用ニーズに対応した衛星データを防災機関や自治体等へ迅速かつ正確に提供することで、避難勧告の発出等の減災に直結する判断情報として広く普及させ、実際の人命保護・救助や財産保護等に一層貢献する。」と修正。
- ④ 環境の変化に対する柔軟な対応を明記してはどうか。
 - Ⅲ.3.「宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施」において、「前項におけるJAXAの取組方針を踏まえ、以下の取組を実施する。なお、個々のプロジェクトの実施に当たっては、将来の安全保障、産業動向、科学技術、国際情勢等の環境変化を踏まえ、柔軟に対応していくものとする。」と追記。
- ⑤ 今後7年間という期間を見据えると、宇宙資源探査や軌道上活動についても言及すべき。
 - IV.1.1.(1)「国際協力・海外展開の推進」において、「宇宙資源探査や軌道上サービスといった先端的な宇宙活動の国内外への展開・実施に必要な法的基盤形成の促進を目的とした政府の活動を積極的に支援」と修正。

【Ⅲ. 宇宙航空政策の目標達成に向けた具体的取組】

- ⑥ 3.1.「衛星測位」において、次期衛星測位システムに関する取組について、言及が乏しいのではないか。
- 「我が国の測位システムの高度化、高精度測位配信サービスの実現、抗たん性強化等を念頭に衛星測位基盤技術に関する研究開発を行う」と修正。
- ⑦ 3.3.「衛星通信」において、2020年により多くのシェアを獲得するという文章の主語を明確にすべき。
- 「2020年代における世界の商業通信衛星市場において、我が国の民間事業者が現状より多くのシェアを獲得することに貢献する。」と修正。
- ⑧ 3.4.「宇宙輸送システム」において、コスト削減に関する数値的な目標や指標への反映をすべきではないか。
- 「評価軸等」(資料国研 7-4-3)の評価指標において、「○宇宙利用の拡大と産業振興、宇宙産業の国際競争力強化に係る取組の成果(品質・コスト・スケジュール等を考慮した取組を含む)」と修正。
- ⑨ 3.9.「国際宇宙ステーション」において、「研究開発基盤として産学官で幅広く利用される姿」の具体像を明確にして頂きたい。
- 「大学や民間事業者等とのより一層の連携強化を通じて「きぼう」が科学技術イノベーションを支える研究開発基盤として産学官で幅広く利用される姿を実現する。」と修正。
- ⑩ 4.2.「新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化」において、「再使用型宇宙輸送システム技術が社会を先導する」という理由が不明確。
- 「再使用型宇宙輸送システム技術(低コストで高頻度な宇宙輸送を可能とする技術)」と修正。

【Ⅳ. 宇宙航空政策の目標達成を支えるための重要事項】

- ⑪ 1.2.「国民の理解増進と次世代を担う人材育成への貢献」において、宇宙開発に当たっては、国民の理解を得ることが不可欠という視点が重要ではないか。
- 「宇宙航空研究開発の事業の推進には、ユーザであり出資者である国民の理解を得ることが不可欠である。」と追記。
- ⑫ 1.5.「施設及び設備に関する事項」において、老朽化という課題に対し、中長期的な更新計画の立案が必要ではないか。
- 「老朽化対策やリスク縮減対策をはじめとする中長期的な更新・整備・維持運用計画の立案及び実施」に修正。
- ⑬ 3.2.「人事に関する事項」において、能力ある女性の登用にも言及してはどうか。

- 「また、働き方の恒常的な改善により、労働環境を維持・向上させ、生産性向上や女性を含む多様な人材の活躍推進に貢献する。」に修正。

【VI. 財務内容の改善に関する事項】

- ⑭ JAXA の保有する資産や価値を利用したビジネス化による資金獲得も検討する必要があるのではないかと。
 - 「JAXA の保有する様々な宇宙航空技術に関する知見の提供等の国内外の民間事業者及び公的研究機関との連携強化等を通じた外部資金の獲得に向けた積極的な取組により、自己収入の増加を促進する。」と修正。

【評価軸・評価軸等】

- ⑮ JAXA 内で共通的に利用する情報システム、JAXA が保有するデータ等を外部と共有するための情報システムについて、情報セキュリティ対策の指標が必要ではないかと。
 - 「・重大な情報セキュリティインシデントの発生防止のための情報セキュリティ対策の状況、宇宙機の運用に不可欠な情報システムに対する情報セキュリティ対策の状況」と修正。
- ⑯ 外部資金等の獲得に関する指標では、件数や金額を成果指標とすべきではないかと。
 - 件数や金額については、プロジェクト横断的なものもあり項目ごとの集計が困難であるため、「評価の視点等」(資料国研 7-5)において、V.「財務内容の改善に関する事項」の「・自己収入の増加を促進する取組の状況」で JAXA 全体の獲得件数及び金額を示すものとする。

(以上)